

武田薬品研究所問題、市民団体が要望書 行政指導求め藤沢市長に

2010年8月24日 (25日付け紙面に掲載-松本記者)

武田薬品工業(大阪市)が藤沢、鎌倉両市にまたがる湘南工場跡地に建設中の新研究所の実験動物焼却炉について、両市の市民団体が24日藤沢市役所を訪れ、海老根靖典藤沢市長に「稼働反対」と「外部委託」の行政指導を求める要望書を1万818人の署名を添えて提出した。

提出したのは藤沢市の「村岡ママ連合」(青木仁子代表)と鎌倉市の「植木峯の下子どもを守る会」(青木 晃 代表)。



海老根市長(左)に署名簿を手渡す青木代表(右)

要望書では「実験で使われた大量の動物が焼却処分されるのは精神的苦痛」と指摘。「煙突から出る煙を毎日吸い続ければ、肉体的にも何らかの影響が出るかもしれないという不安が精神的ストレスにもなっている」とし、外部委託などの行政指導を求めている。

青木代表らから要望書を受け取った海老根市長は「同社に対しては、これまでも環境に配慮するよう行政指導を行ってきた。不安を感じている人がいるなら、それを解消するよう同社に申し入れたい」と述べた。

両団体は今月4日、同内容の要望書を松尾崇鎌倉市長に提出し、「同社への働き掛け」(この件に関して、鎌倉市には行政指導の権限がない)を求める要望書を提出している。

動物焼却炉の稼働反対、市民2団体が鎌倉市長に要望書提出

2010年8月4日 (5日付け紙面に掲載 - 高田記者)

藤沢・鎌倉両市にまたがる敷地に建設中の武田薬品工業新研究所の実験動物焼却炉について、双方の市民で結成された2団体が4日、稼働に反対する要望書を、松尾崇鎌倉市長に連名で提出した。今後、海老根靖典藤沢市長にも同様の要望書を提出するという。

要望したのは、「植木峯の下子どもを守る会」(青木 晃 代表)と「村岡ママ連合」(青木仁子代表)。要望書には、9千219人分の署名も添えられた。

要望書で両団体は、焼却炉からの煙による人体への悪影響などを指摘。実験動物の焼却処分は、外部委託で行うべきとしている。鎌倉市へは藤沢市や武田薬品への働き掛けを、藤沢市へは武田薬品への行政指導を求めている。

要望書を受け取った松尾市長は「武田薬品側にしっかりとみなさんの要望を伝えていきたい」と述べた。

以上の8月24日、8月4日の内容は神奈川新聞湘南版による